



Title	食空間「聚楽庁」：現代キッチンシステム提案
Author(s)	侯, 芳芳
Citation	デザイン理論. 2012, 59, p. 110-111
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/53562
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

食空間「聚楽庁」

—— 現代キッチンシステム提案 ——

侯 芳芳／京都精華大学大学院

1. 発表要旨

「聚楽庁」というテーマで、中国の伝統文化と現代文化を取り合わせて、より現代中国人の習慣、中国の家庭と合うような現代住居の食空間「現代キッチンシステム提案」を考えた。

自分の故郷天津を研究地として、アンケート調査、現地調査を行い、分析して、結論を導いた。それは、中国では、家族を大事にすることである。週末、年末は一緒に料理を作る、食べる、団欒するという食習慣がある。しかし、「一人っ子政策」による核家族化に加え、さらに経済的に豊かになることに伴って、外食が増え、家族の距離が遠ざかっている。そして、家族で一緒に料理をする機会が減り、それにより、伝統的料理の仕方が若い人に伝わらなくなっている。

地元天津での現地調査をした結果、キッチン是一个の小さい空間になるプランが多いということで、それではなく、もっとダイナミックな提案が必要ではないかと考えた。私自身として「食空間」は生活の中心になるべきと考えている。ただし、中華料理を作るため、油煙を控えることにより、もっと家族全員が楽しく、コミュニケーションもよくとれる中国らしい「食空間」の提案を考えた。

2. 研究背景

2-1. 良い点（伝統面において守るべき、引き継ぐべきところ）

(1) 中国「食文化」:

昔から「食べる」ことを大事にしている。「食」を中心として、家族間のコミュニケー

ションをよくとる。(例: 水餃子を作るなど)

(2) 中国「家庭文化」:

昔から「家族」を大事にしている。週末、年末は一緒に団欒するという習慣で、家族間のコミュニケーションをよくとる。

(3) 中国キッチンの歴史:

中華料理を作るため、中華鍋や中華包丁など専用の道具を使う。しかし、炒め料理が中心、油煙が多く、キッチンという空間はいつも家の奥に置かれ、小さく、狭く空間が多い。しかし、以下は欠点ではないですか?

2-2. 欠点（現代面において改善すべきところ）

(1) 社会問題:

- ・「一人っ子政策」による少子化、核家族の形成、祖父母との別居、家族は疎遠になっている。
- ・現代社会は忙しく、夫婦は共稼ぎなので、交流は少なくなっている。家庭での料理や家事をすることを契機に、夫婦は共同ですべきである。お互いに、話をしながら、楽しく料理を作り、夫婦間のコミュニケーションを増進する。

(2) 経済発展における問題:

ゆとりができ、住空間が広くなる一方、飲食文化が変わり、家庭で料理をせずに、外食が流行するようになった。家族間のコミュニケーションが取れなくなっている。

3. 提案目的

「食空間」は生活の中心になるべきと考え、

伝統的暮らし方と、伝統的料理の仕方を守る
ことにより家族間のコミュニケーションをよ
り良くする。ただし、中華料理を作る過程の、
油煙を控えることにより、もっと家族全員楽
しく暮らし、中国らしい「食空間」の提案を
考えた。

4. 提案意義

社会問題をデザインで解決、そして伝統を
生かした現代のライフスタイルを推進する。
キッチンシステムの普及により地域の伝統文
化の保全を図りつつ、新しい生活文化を育成
する可能性に寄与する。

